

夏の夜からホタルは消えた

◎登場人物

水野 灯（ミズノ アカリ） 24歳

……6年前一度行方不明になったことがある。発見されてからは兄の下でニート生活中。

土井 俊介（ドイ シュンスケ） 24歳

……灯の同級生。市役所勤務。

水野 一（ミズノ ハジメ） 27歳

……灯の兄。メーカー営業。

春日 真紀（カスガ マキ） 24歳

……灯の同級生。事務職。

月岡 充（ツキオカ ミツル） 24歳

……灯の同級生。フリーター。

火野 章二（ヒノ ショウジ） 24歳

……灯の同級生。S E。

青木 勝（アオキ マサル） 24歳

……灯の同級生。土木系会社勤務。

金井 優希（カナイ ユウキ） 24歳

……灯の同級生。ホームレス？

春日 信彦（カスガ ノブヒコ） 40歳

……真紀の結婚相手。オカルト雑誌記者。

舞台は海近く、廃墟の水族館
リアルな描写ではなく、抽象的な表現がされている。
青い布や子供が描いたような魚の絵などが雑多に散りばめられている。コードや針金が宙吊りになっている。あまり綺麗ではない。
舞台下手にはダンボールで囲われた空間がある。

○第1幕

【音響Q1…BGM1 蛍の光 F・I】

同級生6人（灯以外）のケータイのライトが舞台上を浮遊する。
舞台中央で立ち上がる灯。

灯 じゃんけんで負けて蛍に生まれたの。（※池田澄子）

灯立ち上がる。

「最初はぐー。」「じゃんけんぽい！」「あいこでしょ！」

じゃんけんの掛け声が聞こえる。

数回のじゃんけんの後、その光は一斉に灯を指す。

灯 じゃんけんで負けて蛍に生まれたの。

灯を照らしつつ、同級生5人（灯と優希以外）が去る。

舞台下手、ダンボールで覆われた場所に優希は閉じこもる。

優希のライトが消える。【音響Q1…BGM1 蛍の光 音響Q2…

BGS1 夏の環境音 X・F↓20秒程でF・O】

【照明Q1…地明かり】

灯 いつまでそうしてるつもり？

優希 ……いつまでも。

灯 そんなことしてたって何も変わらないよ。

優希 変わりたくないんだよ。

灯 思い出さなくていいの？

優希 思い出したくない。
灯 でも前に進むには。
優希 進まなくていい。
灯 もう私たち大人なんだよ？
優希 人のこと言えないでしょ。灯、ニートじゃん。
灯 そうだけど。私も考えるから。
優希 そんな話は聞きたくない。
灯 そんなこと言ったってさ。
優希 本当は、話したくもない。
灯 ……でもこうやって話してくれるじゃん。
優希 灯だからだよ。
灯 え？
優希 灯以外とは話したくない。
灯 そんなこと言わないでよ。
優希 世間から消えた存在なんだ。
灯 優希が？
優希 そう。
灯 それじゃ死んじゃうよ。
優希 死んでもいいよ。
灯 やだよ。
優希 まあ死ぬ勇気があったらとっくに死んでるんだけどね。
灯 やめてよ。
優希 今の世の中って便利だね。
灯 え？
優希 一人が食べて生きてく位は何とかなるんだよ。冬はちよつと寒くて辛
いけど、夏は全然平気。
灯 そうなの？
優希 (立ち上がって) ほら、身なりだつてきちんとしてるでしょ？
灯 まあ。
優希 とにかくここに住むんだ。
灯 そんなにここに執着しなくても。
優希 いつか。

灯 え？
優希 いつかきつとここも取り壊されちゃうでしょ？
灯 そうね。
優希 だから、せめてそれまでは。
灯 ……。

そこへーがやってくる。

一 またここにいたのか。
灯 悪い？
一 探しに来るのも怖いんだぞ。こんな廃墟の水族館。
灯 探しに来なきやいいじゃん！
一 心配なんだよ。
灯 余計なお世話。
一 もう優希に関わるなって。
灯 お兄ちゃんには関係ないでしょ。
一 ろくなことにならないぞ。今のお前は死体と会話してるようなもんだ。
灯 そんなこと言わないで！ ごめん優希。
優希 いいよ。お兄さんの言う通りだから。
灯 もう帰って。
一 もう何年？
灯 え？
一 毎日毎日、灯はずーっとこの水族館に入り浸ってる。もう何年だよ。
優希 ……5年。高校卒業の次の年から。
灯 5年だってさ。高校卒業から毎日だって。
一 確かにあの年お前にあったことは災難だ。でもそれでそっから先を棒に振っちゃダメだ。その5年間がお前にとってどれだけ貴重かわかってんのか？ 人生のいわゆる青春時代ってやつをお前はそいつに台無しにされてるんだよ。だからそんなやつ放つといて新しい……。
灯 口出ししないで！ 私は好きでここにいるんだから！
優希 灯……。
灯 優希がどんなになっても私の気持ちは変わらない。

優希 ごめん。

灯 優希が謝ることじゃないから。これは私の問題。

一 ……明日、お前の同級生を呼んだ。

灯 え？

一 この前偶然、真紀に会ったんだ。

灯 真紀に？

一 結婚するんだってさ。

灯 ……へえ。

一 その様子じゃ聞いてなかったらしいな。

灯 真紀が結婚するからなんなの？

一 お前と優希のことを相談したんだ。

灯 それで？

一 真紀はお前のこと、すごい心配してた。

灯 そう。

一 それで明日、みんなここに呼ぶことにした。

優希 みんな？

灯 みんなって何？ 同窓会でも開くわけ？

一 そういうことだ。だけどクラスメイト全員呼ぶわけじゃない。お前がいつもつるんでたっていう奴らだけを呼ぶ。あの日、ここで花火をした奴らだけをな！

間。

優希 みんなが来る。来るの？

灯 なんで？ なんでそんなことするの？

一 なんで？ 決まってるだろ。お前をここから出すためだ。いいな。明日夜7時にここだ。

灯 やだ。

一 やだじゃない。それだけ伝えに来た。じゃあ。

一、去る。

灯 どうしよう。
優希 わかんない。
灯 どうすればいいかな？

「うわあ」という声とともに俊介がこけながら入ってくる。

俊介 行ってー。引っかかった。

灯 ……俊介？

優希 俊介。

間。

俊介 灯？

間。

灯 うん。

俊介 あ、いや…どーも。…久しぶり。

灯 久しぶり…。どうしてここに？

俊介 それはこっちのセリフだよ！

灯 え？

俊介 6年間も行方不明になつて、久しぶりじゃ済まないって。

灯 ごめん。

俊介 ……その、元気だった？

灯 ……あ、う、うん。

俊介 生きてて、良かった。

灯 ありがとう。

俊介 みんなも、すごい心配してる。明日楽しみにしてるよ。

灯 今日は、なんで？ **【音響Q3・BGM2 過去は蜃気楼 F・I】**

俊介 ……さっきまで七夕祭りの片付け手伝っててさ、ほら、昨日七夕だったじゃん？ あ、俺今市役所で働いてるんだけど、そーゆー行事とか手伝わなきゃいけない部署で。そんで片付け終わったからさ、こっちまで、車で来た

とこだったの。で、こっちついても暇だからさ。下見でもしようかなーつって。まさか灯がいるとは。

灯 そう。

俊介 ……リアクション薄いね。

灯 あ、ごめん。びっくりが先に来ちゃって。

俊介 ……灯は、今お兄ちゃんのとこだっけ？

灯 うん。

俊介 どこ行ってたんだよ。……あの夜以来さ。

灯 みんなが卒業した後に戻ってきたの。でもそれ以来、私、お兄ちゃんと優希以外に会ってなかったから。

俊介 そっか。まあしょうがないよな。……でも、にしたって、警察まで動いてたんだぜ？ 連絡くらい……。

灯 本当にごめん。

俊介 まあ、こうして会えてよかったけどさ。でもさ、急にいなくなっちゃうから、俺あれだったんだよ？

灯 あれ？

俊介 いや、あれ、ほら、寂しかった。

灯 ごめん。

俊介 ……この時期は夜になるとちよつと涼しいね。

灯 うん。……ねえ俊介。

俊介 ん？

灯 俊介は言霊って知ってる？

俊介 言霊？

灯 うん。

俊介 うーん。知ってるといえば知ってるし、知らないといえば。

灯 知らない。知らないといえば知らない。

俊介 そう。

灯 知らないといえば不知火。

俊介 不知火？

灯 海にふわっと浮かぶたくさんの火。

俊介 蜃気楼みたいなもの？

灯 夢がない。

俊介 それと言霊が何なの？

灯 不知火は火を知らないと書く。

俊介 で？

灯 火を知らないって面白いよねって話？

俊介 は？

灯 蜃気楼もそうでしょ？ そこにあるように見えて、でも掴めない。

俊介 灯の話は昔から、たまに、よくわかんないんだよなー。

灯 そう？

俊介 何考えてるかわかんないというか、不思議というか、まあそこがいいと
いうか。あれなんだけど。

灯 またあれ？

俊介 うん。あれ。

灯 そっか。……言葉には力がある。そばにいたいと言いつづければそこに居
られる。俊介は言いつづけていることある？

俊介 ……あるよ。【音響Q3…BGM2 過去は蜃気楼 F・O】

灯 何？

俊介 秘密。

灯 それじゃあダメだよ。言葉にしないと言霊にはならない。

俊介 秘密！

灯 あっそ。

俊介 ねえ、真紀から聞いたんだけど、優希、いるの？

灯 いるよ。

俊介 ……そうか。どこに？

灯 そこ。

俊介 そうか。

俊介、ダンボールをどけようとする。

灯・優希 やめて！

俊介 え？

優希 入ってこないで！

灯 勝手なことしないで。

俊介 え？ あ、ごめん。

灯 ……明日も、そういうこと絶対しないでね。

俊介 ……うん。

灯 じゃあ、また明日。

俊介 いや。久しぶりだし、もう少しさ。

灯 そんな気分じゃないの。ごめん。

俊介 そうか……あ、灯！

灯 何？

俊介 いや……。明日話すよ。

灯 そう。

俊介 また明日ね。

灯 うん。

俊介、去る。

灯、客席に向け、ライトをとます。

【照明Q2…溶暗】灯のライトだけが残る。

灯 夏の夜からホタルは消えた。

ライトが消える。【音響Q4…BGM3 郷愁 F・I】

○第2幕

【音響Q4…BGM3 郷愁 音響Q5…BGS2 夏の環境音 X・

F↓20秒程でF・O】【照明Q3…地明かり】

翌日。

舞台上には俊介のみ。スマホをいじっている。

そこへ火野が入ってくる。

俊介 あ、もしかして火野？

火野 うん。久しぶり。

俊介 久しぶり！ 成人式ぶりだね！ なんかつった？

火野 ちよつと。

俊介 懐かしいよな。ここ。

火野 よく集まったよね。

俊介 火野って今何してんの？

火野 婚活。

俊介 は？

火野 そろそろ結婚したいなと思って。

俊介 いや。

火野 でも相手がないっていうね。婚活パーティーとか行ってもあれはダメだね。コミュ力の高い一部の男たちが全部持つてっちゃうわけ。そうすると俺なんかはさ、会話に入ることもできずに隅っこの方で話しかけられんの待つことになるからさあ。いやーそういう感覚でいうと高校時代俊介が話しかけてくれて本当に良かったよ。おかげさまでこのグループに入れたみたいなどころあるからね。

俊介 何言ってんの。普通何してんのかって聞いたら仕事でしょ。

火野 ああ、仕事ね。仕事はSEやってる。社内SEってわかる？ 基本的にはSEって客先常駐だったりするんだけど、社内だから、俺は。その点気が楽でいいんだよね。俊介は？ あ、知ってるわ市役所でしょ？ ぽいよねー。優等生っていう感じ。いいよねー安定だよね公務員。

俊介 あ、ああ。

火野 でもこの水族館、変わってないよねー。俺来たの6年ぶりだよ。俺たちがいなくなっただ後もここで遊んでる奴らとかいるのかな？ いないかー。いたら俺たちの時代にすでに誰かに会ってるもんな。

俊介 だな。

間。

そこに充が入ってくる。

充 やばいやばいやばいやばい。

火野 あ、充！

俊介 おー充！ 何？ 何がやばいの？

充 いやいや、お前らだよお前ら！ 何今の会話！ っていうかまず火野、

お前ますます会話下手になつたら！

火野 なつたかも。

充 だよな。何さっきの。人と喋るの久しぶりかよ！

火野 いや、だってほぼ仕事でしかしゃべんないし、仕事でもしゃべんないし、かといって婚活パーティーいったところでどうせ喋れなくて充みたいな会話回すやつがべらべらべら喋ってるのをうんうんうなづいて聞いてるだけだし。

充 くだら！ しゃべりがくだら！

火野 え？ くだら？

充 くだら！

俊介 充はうるさいけどな。

充 まあまあ、そう言うなって。久しぶりでテンション上がってんだから。

俊介 お前と俺は3日前にも会ってるだろ！

火野 2人は会ってるの？

充 俺と俊介は地元組だからね。火野も青木も真紀もこっちじゃないでしょ。

火野 充は？ 就職したの？

充 いや、まだコンビニでバイトしてる。

火野 就職しろよ！

充 いや、社員にならないかって言われててさ、どうしようかなーって感じ。

火野 そうかー。社員になっちゃえばいいのに。

充 でもコンビニだしなー。みたいな。

火野 じゃあ就職しろよ！

充 でもなあー。

俊介 そういえば火野、聞いた？ 真紀結婚だって。

火野 嘘でしょ！ 俺、今日真紀か灯となんかあるかもって淡い期待をしてたのに。

充 ないない。

俊介 第一、真紀は充の元カノだからね。

火野 元じゃん！ 関係ないじゃん！

充 関係あるわ！

俊介 仲間内でそれやったらややこしくなるだろ。

火野 じゃあいいよ。灯にするから。

充　　なんでお前に選ぶ権利があるんだよ！

火野　だって久しぶりに会うんだよ。それくらい夢見たっていいじゃないか。
あれ以来会ってないんだし……。

間。

充　　今日ってなんで呼ばれたの俺ら？

火野　知らない。懐かしの場所で同窓会じゃないの？

俊介　あ、お前から真紀から聞いてないの？

充　　聞いてないよ。

俊介　そうか。

充　　そうかじゃなくて教えろよ！

火野　なんで俊介だけ聞いてるんだよ。

俊介　いや、電話で話したから？　かな。

充　　俺、ラインだったわ。そういや成人式以来あいつと喋ってないんだ。

俊介　成人式のちよい前だっけ？　別れたの。

充　　そうだよ。

火野　ねえねえそんなことよりさ、俺、フェイスブックだったんだけど。今日の連絡。

充　　なんでだよ！

火野　真紀に連絡先知られてなかった。

充　　まじか。あれ、俺お前の知ってるかな。

火野　え、嘘でしょ。

俊介　俺も知らないかも。

火野　いやいや、ひどくないそれ？

充　　まあいいか、火野だし。なんかあったらフェイスブックから連絡するわ。

俊介　そうそうないだろそんなこと。

火野　え？　今交換する流れにならないの？

俊介　それはいいかなー。

充　　どーせ。な？

俊介　な。

火野　なぜこの状況でケータイを出さないんだ！　普通登録してたかどうか確

認するだろ！ 入ってなくても問題ないみたいな感じやめてー！

充 いや、だから入ってなくても問題ないんだよ。

火野 はー！ー！ー！

充 うるさいな！ で？ 何の集まりなんだよ？

俊介 青木が来てからにしよう。二度手間だし。

充 確かに。俺が聞いてなくてあいつが聞いてるなんてことはありえない。

火野 それは言ってる。あいつはさあ……。

そこへ真紀と信彦が現れる。

真紀 久しぶりー。

俊介 おお、久しぶり。

火野 結婚したの？

真紀 いきなりそれ？ まあ、そうだよ。

充 ご結婚おめでとうございます。

俊介 おめでとうございます。

真紀 ありがとうございます。

火野 式は？

真紀 式は来年にしようかなって。みんなも呼ぶね。

信彦 あ、みなさん、初めまして。春日信彦と申します。

真紀 あ、夫ね夫。

俊介 初めまして。

充 初めまして。

火野 どうも。

信彦 月岡充さん！

充 はい！

信彦 あなたが充さんですか。

充 はい？

信彦 ちよくちよく話は聞いてますよ。

真紀 ちよつと！

充 真紀！ お前なんの話してんだよ！

真紀 何も話してないって！

信彦 寝相。悪いんですって？

充 あ、はあ。

真紀 おい！（信彦を思い切りどつく。）

信彦 いったー！

真紀 そういうのやめなさいって言ったでしょ！

信彦 はい。

真紀 全く。

信彦 今日はすいませんね。旧交を暖める会に新参者の私なんかがお邪魔してしまつて。

俊介 いえいえそんな。あ、僕、土井俊介って言います。で、こっちのが火野です。

火野 火野です

信彦 よろしく。

真紀 紹介しなかったのと、今日の件で、もしかしたら役に立つかなと思つて連れてきたの。

火野 今日の件？

真紀 あ、まだ話してない？

俊介 みんな揃つてからにしようと思つて。

真紀 そつか。その方がいいか。

信彦 いやあ、でも廃墟の水族館なんて非常に興味をそそられますねー。どんくらい前からあるんですか？

充 ああ、いつからですかね。生まれた時にはもうあつたような気がします。

信彦 じゃあ、もう20年以上は経つてゐるってわけですか。すごいですねー。：：ここが君たちの秘密基地だつたってことなんですよ。

俊介 秘密基地っていうか、まあ遊び場ですよ。めつたに人も立ち入らないし。

信彦 そりゃあ怖いでもんね、こんなとこ。

真紀 昔はここにたくさん魚がいたんだろーなー。

充 食うらしいぜ？

真紀 は？

充 潰れた水族館の魚はスタッフが美味しくいただきましたって。

真紀 そんなわけないでしょ！

充 あ、バレた？

俊介 別の施設に移動させるのが普通だよな。魚たちからしてみれば、この水族館からの卒業だよ。

信彦 水族館からの卒業ですか。いい響きですね。

火野 ……てゆーかさ、青木来るの遅くない？

充 これじゃあ灯より早く集まった意味がないっての。

火野 言ってる。

真紀 ちよつと充。青木に電話してみてよ。

充 えー。

真紀 いいじゃん電話くらい。

充 なにしてんだよあのバカ！

充、電話をかける。

充 ……でない。……あ、ラインきた。「移動中。電話でれない。さっき出たところ」だったさ。

火野 はい遅刻決定。

俊介 いつものことか。

真紀 もう！ 大事な話だって言ってるのに。

信彦 まあまあ。人にはそれぞれ事情というものが。

真紀 うるさい！（信彦をどつく）

信彦 痛い！ なんで？ 今私悪いことしてない！

真紀 関係なくせにしゃしゃり出てくる感がやだ。

信彦 だってそのために呼んだんでしょ？

真紀 そうだけどうるさい。

信彦 えー。

真紀 もうとりあえず、青木抜きで話すしかないかな？

充 あいつはいつもそうだ。肝心な時にいつも遅れてきて。

火野 なんか、これは俺が思ってる感覚だけど、俺らみんな仲よかつたけどあいつだけはちよつと違う感じで、他のグループにも仲良いやつとかいっぱいいたし、あいつにとって俺たちってそこまで大きい存在じゃないというか。

充 そうかもな。あいつは俺たちとはちよつと違う。な？

俊介 え？ ああ。

真紀 そんなこと言わなくても。

火野 実際に今日平気で遅れてくるのがあいつなんだ。これは事実だよ。真紀もなんとなくわかるでしょ？ あいつは俺たちのことなんとも思っていないだ。

真紀 なんとも思っていないはずないでしょ。

俊介 そうだよ。

火野 もういいよ青木の話は。

充 お前がしたんじゃない。

火野 そうだけど！ で？ 何の話なの？

間。

信彦 言いつらければ私が話そうか？

真紀 いや、いい。

信彦 そう。

火野 いいづらい話なの？

真紀 そう。……優希の、話。

間。

充 優希の？

真紀 うん。

間。

充 今更、優希の話なんてしてどうなるっていうんだよ。

火野 そうだよ。俺は、できればしたくない。

俊介 俺だってそうだよ。でもしなきゃいけないんだ。

充 何で？

真紀 頼まれたの。灯のお兄さんに。

火野 いや、別に灯のお兄さんに頼まれたってそんなことする必要ないでしょ。なんか気分悪いよ。

充 灯には会いたいけど、その話しなきゃいけないっていうなら俺は帰る。

充、去ろうとする。

信彦 待ちなさいって。話は最後まで聞いてからにしませんか。

真紀 信ちゃん！

充 何ですか。部外者は黙っててください。

信彦 いやいや、どうやらこの物語には私のような部外者の視点が必要のようですよ。

充 は？

俊介 これは灯のためなんだ。

充 何が？

俊介 あの日あったことを灯に話すんだ。当事者である俺たちの口から。

充 だから、そんなことして何になるんだよ。

火野 そうだよ！ もう死んじゃったやつの話して何になるっていうんだ！
嫌な気分になるだけじゃないか！

間。

真紀 そう、優希は6年前の夏に死んだの。

充 そうだよ。それがなんなんだよ。

真紀 でも、灯には見えてるんだよ！

火野 は？

俊介 そこに、ダンボールの山があるだろ？ その先に、いるんだって。

充 そこに？

火野、ダンボールの方へと向かっていく。

火野 何にもいないじゃないか。何が言いたいんだよ。

俊介 灯には見えてるんだよ。俺、昨日灯に会ったんだ。普通じゃなかった。

本当にそこに優希がいるみたい……俺がそのダンボールに触ろうとしたら本気でキレて……。あいつの中で優希は死んでないんだよ！

充 ……そんなことあるか？

真紀 あったからお兄さんは相談してきたんだよ。

信彦 私は普段、オカルト雑誌の記者をやっています。そういったことについての知識は他の方よりすぐれていると思いますよ。お話を聞いて何かお役に立てればと思います、真紀と一緒にやってきたのです。

火野 到底信じられないよ。

信彦 幻肢痛ってご存知ですか？

充 幻肢痛？

信彦 例えば四肢を切断した患者さんが、あるはずもない手や足の痛みを訴えます。足を切断したにもかかわらず、踵に痛みを感じるといったような、腕を切断したにもかかわらず、手の先端があるような感じがするような、そんな状態のことです。別名フアントムペインとも言います。それと似たことで、その人への思いが強すぎるとその人そのものを脳の電気信号が作り出してしまう。そんな話がたまーにあるらしいんですよ。

充 灯がその状態だっていうんですか？

信彦 まだわかりません。この目で見ないことには。

火野 灯には、死んだはずの優希がそこに見えるってことなの？

真紀 お兄さんの言うことが本当なら。

充 信じられるかよ。

火野 俺も。

真紀 私も半信半疑。だからお兄さんは言ったの。まず灯が来たら、お兄さんが灯がおかしくなってるってことを証明してくれるって。

俊介 本当だよ。灯はおかしい。俺は、見たから、わかる。

充 そんなに？

俊介 普通には話せるんだ。でも、優希の話になったとたん豹変して……。

火野 だけどさ、もし本当にそんなやばい状態なんだったら医者にも連れてった方がいいんじゃないの？

真紀 病院には何度も連れてこうとしたんだって。でも、本人はおかしいと思っけないから、拒否されちゃうって。

俊介 そんな状態だから俺たちにもずっと連絡できなかったのか。

真紀 灯、5年前にふらっと家に戻ってきてから、ずっとお兄さんとこでニートみたいな生活してたらしいよ。

充 ニート……ね。

信彦 もしファントムペインの拡大版だと解釈するならば、優希さんがもういないということ灯さんの脳に教えてあげると必要があると思います。だからお兄さんはそのために君たちを呼んだのでしよう。

火野 灯の前で、灯の脳に優希の死を伝える……。

充 馬鹿馬鹿しい。久しぶりに会ってまさかそんな話を聞かされるとは思わなかった。どっちかっていうと今俺にはお前たちの方が狂って見えるよ。

俊介 お前は灯を見てないから！ あれを見たらお前もわかる！ なんとかしたいって、そう思うはずだ。

間。

充 ……わかったよ。見て決めよう。

火野 俺も、見て決める。

真紀 でもさ、考えてみれば、優希のこと話すのなんて本当に6年ぶりだよ。

充 話したことないよ。1度も。

真紀 え？

充 みんなであいつのことを話したことは一度もない。俺たちはそれぞれ警察にあの日会ったことを話したただけだ。

火野 そっか、みんなで話したことってなかったね。

真紀 封印しちゃってたんだ。成人式の時だって誰も優希のこと話そうとしなかったもんね。

俊介 あの時、俺が……。

間。

充 何言ってるんだよ！ 俊介は悪くない！ 俺が！

俊介 は？ どう考えたって俺が！

火野 それ言ったら俺だって！

俊介 お前らは知らないだけだ！

真紀 やめなよ。……こうなっちゃうから今まで話さなかったんだよね。きつと。

間。

そこへ灯と一がやってくる。

と同時に下手から優希が現れる。

ぎこちなく挨拶が交わされる。

灯 あ、みんな久しぶり。

真紀 久しぶり！

充 久しぶり！ 心配したよ。

火野 久しぶり。

俊介 あ、俺は昨日ぶりだけどね。

灯 昨日ぶり。あ、青木は？

充 ああ、あいつ遅れてるんだ。

灯 そうなんだ。

真紀 お兄さん、先日はどうも。

一 こちらこそすいません。

信彦 ……初めまして、真紀の夫の春日信彦と申します。

一 水野一です。本日はよろしくお願いいたします。

灯 妹の水野灯です。

信彦 しかし、廃墟の水族館で同窓会というのも粋ですね。

一 そんな大したものじゃないですよ。

信彦 お酒くらい買ってくればよかったです。

真紀、無言で信彦を殴る。

信彦 いたっ！

真紀 また余計なことを。

充 ……お酒はいららないですよ。

信彦 あ、そうですか。

間。

一 早速だけど、今日ここに集まってもらった理由はみんな知ってると思う。

灯 勝手なこととして……。【音響Q6：BGM4 兄の詰問 F・I】

一 今日は灯を含めてあの、6年前の夏の日、ここで花火をしていた7人のうち6人にあの日以来初めて集まってもらった。

信彦 6人……。

一 優希、真紀は何度かうちに遊びに来てたから知ってるけど、そちらの3人は初めてだね。俺は水野一。灯の兄だ。

充 初めまして。月岡充です。

火野 初めまして火野章二です。

俊介 土井俊介です。初めまして。

一 今日はよろしく。……さて、6年前のあの日から約1年間、灯は行方不明になっていた。あの日何があったのか、俺は警察からしか聞いてない。だから今日は君たちから、直接話を聞こうと思う。

灯 そんなことしなくてもいいって。

一 昨日も言ったけど、これはお前のためだ。……さて、皆。こんなことを言うのもよくないけど、俺はあの日、灯が行方不明になった原因は優希にあると思ってる。

優希 え？

灯 何言ってるの！ そんなわけないじゃん！ 何度も言ってるでしょ！

私は何もかもが嫌になって逃げ出しただけ！ 優希は関係ない！

一 じゃあ何で戻ってきて以来、毎日毎日ここに来るんだ？

灯 それは……。

一 ここに優希がいるからだろ？

灯 私は、優希にここを出て欲しくて。

一 優希がお前をここに縛り付けてる。優希がここに来るようになったのもあの日から1年後だという。だったら行方不明になった原因も優希じゃないのか？

灯 違う！ 優希は悪くない。

優希 灯……。

一 本当にそうか？

灯 本当。

一 じゃあなんでお前はズーっとここにいるんだ？

灯 私は優希がここを出るのを待ってるだけ！

充 ちよつと待てよ灯！ 出るも何も！ 優希は……。【音響Q6…BGM4
兄の詰問 F・O】

間。

灯 優希は？

充 もういないんだ。

灯 もういない？ 何言ってるの？

充 優希は、死んだんだ。

灯 死んだ？ 意味わかんないよ。そこにいるじゃん！

充 お前疲れてるんだよ。お前が見てるのは幻覚だ。

灯 幻覚？

充 冷静になれよ。

灯 私は冷静だよ。

充 いや、冷静じゃない。じゃなきゃ優希が見えるはずないんだ。

灯 冷静だよ。充、おかしいよ？ どうしたの？

真紀 灯、落ち着いて聞いてね。あの日優希は死んだんだよ。……そのことを

わかってもらうために、今日私たちは集まったの。

灯 優希が死んだ？ そこにいるのに？

優希 どういうこと……。

灯 優希が放つといてほしいって思ってることは事実だけど、なんで死んで

るなんていうの。それは酷すぎるよ！

優希 いいんだ。どうせ死んでるようなもんなんじゃね。

灯 そんなことない！ 優希は生きてるよ！

火野 充？

充 何？

火野 信じるよね。

充 信じる。信じた。

俊介 ……じゃあ俺たちに出来ることはなんだ？

灯 何？ 何を信じるの？ さっきからみんな言ってるのがわかんない

よ？

火野 ねえ灯、優希は俺たちを見て何で黙ってるの？

灯 ……話したくないんだって。
火野 それはなぜ？【音響Q7・BGM5 暴こうとする意思 F・I】
灯 それは……。
優希 世間から消えた存在だから。
充 話したくない？ 違うだろ？ 話せないんだ。だって優希はここにいな
いんだから！
真紀 ちよつと充！

充、ダンボールを蹴飛ばす。
しかし、優希が抑えていて動かない。

充 え？
灯 やめて！
充 うおっ！

充、何度かダンボールを蹴飛ばす。
しかし、やはり動かない。

優希 やめて！ やめてよ！
充 何だ！ これは！
灯 もう蹴らないで！
充 だって！
灯 充！ 本当に！ やめて！
俊介 やめよう！ そのやり方はよくないのかもしれない。
充 何落ち着いてんだよ！ 一体これは………どういう。
俊介 昨日と同じ感じだ。だから、わかる。
充 わかるつつたつたって……。
俊介 気配がするんだよ。
充 それって。

一 そうなんだ……。こうやって、たまに優希がいるんじゃないかって現象
が起きる。その度おかしいのは俺の方かもしれないって考えた。でも違う。

絶対に。【音響Q7・BGM5 暴こうとする意思 F・O】

間。

信彦 ファントムペイン……ではないのかもしれませんが。だとすればこれは地縛霊。

真紀 地縛霊？

信彦 つまり自分が死んだことを受け入れられなかったり、自分が死んだことを理解できなかったりして、死亡した時にいた土地や建物などから離れずにいる霊のことです。こちらの方でしたかね。

火野 お化けってこと？

信彦 まあそうなりますね。そうなると本格的な除霊のお話になってきます。

もし優希さんにここにいる方々の言葉が伝わるならば、優希さんに自分の死を理解してもらおうっていうことになりますかね。

真紀 何でそんな冷静なの？

信彦 まあ、慣れてるからね。

真紀、無言で信彦を殴る。

信彦 痛いっ！

真紀 かつこつけんな。

信彦 別にかつこつけたわけじゃ……。

一 地縛霊……。優希の地縛霊がそこに？

真紀 でもなんか、私もうつすらそこに気配を感じてきたような気がする。

火野 やめろよ！

充 でも……なんか。なんだろうこの不思議な感じは。

俊介 ここに来てからずっと、ずっと違和感を感じてる。

灯 優希は地縛霊なんかじゃない？ ずっと見えてるんだよ？ ねえ優希？

優希は霊なんかじゃないよね？

優希 さあ、どうだろうね。もしかしたらみんなの言う通りなのかも知れない。

灯 なんでそんなこと言うの？

優希 じゃあさ、試してみれば？

灯 試す？

優希 「除霊」してみたら？ 試してみてもダメならどうせここを出て行けないし

ね。

灯 そうか……。そうかもね。

俊介 優希は？ 優希はなんか言ってるのか？

優希 どうして死んだのか。教えてよ。

灯 本当にみんなには声が聞こえないの？ 優希が見えないの？

信彦以外全員うなずく。

灯 優希は……。優希は、「除霊してみたら？」って。「どうして死んだのか。教えて」って。そう言ってる。

充 本当に優希が。

火野 そこにいるのか？

一 ……わかった。本人がそう言ってるんだ。灯も問題ないよな？

灯 ……うん。【音響Q8・BGM6 回想 F・I】

一 どうだ？ あの日君たちにここで何があったのか、教えてもらえるか？

俊介 ……花火をしたんです。いつも集まったこの場所で。

一 そうだね。昔から君たちは何かとここに集まった。それはなぜ？

真紀 私たちがここで出会ったのは、本当に偶然だった。

充 最初は俺と俊介と火野がよくここで集まってゲームしてたんだ。

真紀 私と灯と優希は元々、同じ美術部だったから。元々よく遊んでたんだけど。ある日、肝試しをしようって言ってこの水族館に3人で来たの。それが高2の夏。

火野 あの時はびっくりしたよね。お互い本当にお化けが出たと思って。大声で叫んでさ……。でもあれだね、あの時はこうして本当にお化けと対峙する日がやってくるなんて思ってもみなかった。人間こうなると意外と冷静でいられるもんだ。

俊介 それで同じ学校だってわかってな。毎週のように遊ぶようになった。

灯 あの頃は楽しかったな。

優希 そうだね。

一 もう1人。青木という子がいると聞いたけど、彼は仲間じゃなかったの？
充 あいつは1人だけ後から入ったんですよ。野球部でゴリゴリに部活やってたから。でも3年の夏前に試合負けて引退することになってから、暇んな

ったんすかね？　ここで見つけて、一緒に遊ぶようになったんです。

俊介　そういえば青木はなんで1人でここにいたんだろう。

火野　隠れてタバコでも吸ってたんじゃないの？

俊介　あれ？　青木にここで初めてあったのって誰だっけ？

灯　私、知ってるよ。

俊介　誰？

灯　優希だよ。ね？

優希　う……うん。

灯　優希が最初に青木を見つけたんだよ。

充　優希が最初に会ったのか。

一　ちなみに灯はなんで青木がそこにいたか知ってるか？

灯　私？　私は知らない。

一　灯は知らないらしい。みんなも知らない？

俊介　はい。

充　知らない。

火野　知らないです。

信彦　私はもちろん知りません。

真紀　……知ってます。

充　え？　お前知ってるの？

真紀　優希から聞いたことあるんだ。

俊介　そうだったんだ。

一　だとすれば、初めて会った日、青木がここにいた理由を優希に喋ってもらって、その内容が真紀と一致すれば、優希はここにいないことになるか？

逆をいえば、一致しなければ優希はここにいないことになる。なあ灯？　お

前本当に知らないんだよな？

灯　……知らないよ。

充　待ってください。それってもし一致したら……。

火野　灯には優希の幽霊が見えてるってことになるよね。

灯　幽霊じゃないってば！

一　まあ幽霊かはともかく、灯の言う通り優希はここにいて灯と話することができているっていう証明になる。

俊介　そうですね。

一 さあ、優希？ 青木は最初、ここで何をしていたのかな？
優希 話したくない。

間。

一 灯。優希はなんて？

灯 ……「話したくない」って。

一 話聞いてたか？ それじゃあ証明にならないんだよ。

優希 話したくない。

灯 やっぱ「話したくない」って。

一 あのなあ。

充 灯、あんまこういうこと言いたくないけどさ、それって優希が話したくないんじゃないかってお前が知らないから話せないんじゃないの？

灯 違う！ 優希が！ そう言ってるの。

優希 ごめん、灯。でも言いたくないんだ。

灯 「言いたくない」って。「ごめん」ってそう言ってるよ？

火野 言いたくないって言われてもな。

充 それじゃあ信用できないよ。

灯 ごめん、でも。私だって、優希がここにいることみんなに伝えたいって、そう思ってるよ。でも優希が言いたくないなら、仕方ないじゃん！

火野 でもなあ。【音響Q8・BGM6 回想 F・O】

間。

真紀 本当かもしれない。

火野 え？ なんですさ。むしろ今なので。

真紀 言いつらいことなんだよ。青木がここにいた理由。

灯 そうなの？

優希 ……うん。

灯 言いつらいって。

充 なんだよそれ。

俊介 じゃあ真紀も俺らに言えないってこと？

真紀 うん。

一 じゃあ、もし青木が来たら話せる？

真紀 え、いや、どうだろ。青木がいいって言えばいいけど。

一 困ったな。

火野 せっかく優希がここにいる証明ができると思ったのに。

間。

信彦 ポルターガイスト。

充 え？

信彦 もし優希さんがここに地縛霊としているならポルターガイスト現象を起こせるかもしれませんよ？

一 ポルターガイスト？

信彦 いわゆる、心霊現象の一種ですね。誰も手を触れていないのに、物体の移動が起きるとか、コンコンコンという物をたたく音がしたりとか、すごいのだと発光、発火なんかが起こるとか。ですから優希さんに頼んでものを動かして貰えば、そこにいることの証明になりますか？

火野 映画とかで見たことあるやつだ！

充 確かにそれなら証明になるかも。

火野 いい方法ですね。

真紀 さすがオカルト記者！

一 灯、優希に頼んでみる。ものを動かしたり音を立てたりしてみろって。

灯 どう？

優希、ダンボールをバンバンと叩く。

驚く一同。

優希 やって見た。

灯 「やって見た」って。

充 そこに、いるのか優希？

火野 嘘。

真紀 つまり灯の言ってることは正しくて、私らに靈感がないだけってこと？

灯 …… 優希って幽霊なの？

優希 どうだろうね。そうなのかもね。

灯 優希が幽霊なのはわからないけど、優希はここにいるんだ。

俊介 俺は灯を信じる。優希はここにいるんだ。久しぶり。優希。

優希、ダンボールをバンと叩く。

再び驚く一同。

俊介 ほら、すごい！ 返事が返ってきた。いるんだ！ 優希が！

真紀 嘘でしょ？ 優希？ わかる？ 真紀だよ？

優希、ダンボールをバンと叩く。

真紀 本当だ！

充 優希！ 俺だ！ 充だ！

優希、ダンボールをバンと叩く。

火野 優希！ 久しぶり！ 会いたかった。

無反応。

火野 え？ 俺だけ無反応？

充 …… 完璧だ！

火野 何が完璧なわけ？

俊介 火野の扱いだよ！

充 火野だけ無視するなんて！ そこにいるのが優希だっていう証明じゃないか！

真紀 いるんだ！ そこに！ 優希が！

喜ぶ同級生一同。

一 そんな……信じられない。

灯 よかった。お兄ちゃんが間違ってるってことがわかって。

一 俺が、間違ってるのか？

信彦 いいえ、お兄さん、あなたは間違ってますよ。彼らは今喜んでいますが、同時に悩んでいるはずですよ。これからどうすればいいのか。なぜなら優希さんが死んでいる事実は変わらないからです。声も聞こえない姿も見えない。霊としてはそこに存在するのかもしれない。でも死んだ人間であることに変わりはないのですから。

灯 ……もうわかったでしょ？ 優希はここにいるの。申し訳ないけど皆帰って。あとは私と優希の問題だから。

俊介 待てよ。ここまで来て帰れるか。

灯 もういいでしょ？

充 よくねえよ！ このままお前を放つとけないだろ？

火野 俺もそう思う。

灯 迷惑なの！

俊介 お前が迷惑でも、もう知らない。

灯 え？

俊介 俺はお前を助けない。

灯 助けるなんて……無理だよ。

充 無理じゃない。何か解決策があるはずだ。

真紀 でも……どうすれば？

信彦 ……まず先ほどの話に戻るんです。

充 戻る？

信彦 優希さんの死の再確認です。あの日何があったのか、まずはそれを話すべきなのではないですか？

俊介 今更そんなことしても。

一 いや、意味はある。優希がここにいるのは自分の死を理解してないからとも言える。だから、それをわからせてやれば。

灯 聞いている？ 私と優希の問題なんだってば！ 口出ししないでよ！

一 わかってるだろ？ 口出しするために今日があるんだ。

灯 ……。

火野 俺たちは優希に自分の死を理解させる！
充 それってでも優希を消すってことだろ？
火野 そうだよ。もともと優希はここにいちやいけない人間だ。
充 でも！ いるじゃんか。どう考えたって。あいつ、ここにいるじゃんか。
俊介 いる……でも。
火野 じゃあこのままでいいのかよ。消すって言い方の印象が悪いよ。……成
仏だ。それなら文句ない？
充 そういう問題じゃないだろ？
火野 そうだ、そういう問題じゃない。わかってるだろ？
充 わかってるよ。だからって。
真紀 灯。優希はなんて言ってるの？
灯 優希は……。
優希 ……聞きたい。何で自分が死んだのか。もし自分が死んでるならきちんとそれと向き合いたい。あの花火の夜、逃げ出してからの記憶がないんだ。ずっとずっと逃げてきたんだ。でも、今日はみんながいるから、聞く。聞ける。聞きたい。
灯 ……「聞きたい」って。
俊介 そうか。
真紀 これは、絶対灯のためにもなると思うから。
灯 ……うん。
俊介 そうだ。このまま帰れない。
一 そうか、なら話を戻そう。6年前のあの日。そう、七夕祭りが終わった次の日だったか。一体君たちに何があったのか改めて教えて欲しい。
充 ……じゃんけんをしました。【音響Q9…BGM7 回想2 F・I】
一 じゃんけん？
真紀 あの日、花火をしに来て、相変わらず青木は遅れてきて、だからいつも通りだったんです。でもあの日は高校最後の夏っていうのもあって、ちよつと浮かれてた。
充 俺が、俺が調子に乗って酒飲もうって言い出したんだ。
火野 俺も賛成した。
真紀 だからじゃんけんをして、勝った5人が買いに行つて、負けた2人がここに残ろうつてなったんです。

俊介 それで、負けたのが青木と灯だった。

真紀 酒を買いに行く途中、優希はお金忘れたって言って、戻りました。

火野 俺たちが出すからいいよって言ったんですけど、優希は戻るって言って聞かなくて……。

俊介 夜道だし1人だと危ないかもって言ったんですけど。

火野 優希は1人でいいって言って聞かなかった。

充 あの時俺が、無理矢理にでもついて行っていけば……。

俊介 それは、お前のせいじゃないよ。

真紀 だから私たちは優希が戻ってくるのを待ってたんです。

俊介 でも優希はいつまで経っても戻ってこなかった。だから俺が見に行くことにしたんです。でも戻った水族館には青木しかいなかった。青木に聞いたら、優希はここに来てなくて、灯も俺たちを追いかけたはずだって。

火野 その日2人は行方不明になって、翌日海岸に打ち上げられた優希の死体が見つかったんです。警察の調べでは誤って崖から転落したんだろうって。

真紀 これが私たちが警察に話したことの全部です。

一 優希は崖から落ちて死んだ。それが事実だよ。わかるか灯？ みんなそう言ってる。優希、お前も、もしそこにいるならわかっただろう？

灯 違う……。

一 違う。認めるんだ。それが真実なんだ。

灯 違う。

真紀 ねえ灯。優希はなんて言ってる？

灯 優希……。

優希 ……。

灯 何も、言ってくれない。

充 おい優希！ もしいるなら灯に言ってやってくれよ！ 自分が死んでるって！ それが灯のためだろ？ な！ それともお前も俺たちの話が信じられないか？

優希 ……。

充 何で壺になってまで引きこもってんだよお前は！

優希 ……。

俊介 なあ、優希、お前、自分が死んでるってこと忘れてるなら、一体どこまで覚えてるんだ？ 【音響Q9・BGM7 回想2 F・O】

間。

信彦 あの一。よろしいですか？

一 何でしょう。

信彦 部外者があまり口出しするのもよくないかとは思いましたが、幾つか気になる点がございましたので。聞いてもよろしいでしょうか？

真紀 信ちゃん？

信彦 ちよつとね。

一 ええ、そのために呼びましたんです。構いませんよ。

信彦 まず1点目、じゃんけんについてです。

充 じゃんけん？

信彦 何か、不思議なじゃんけんだと思いますか？ 高校生がお酒を買いに行くという行為は通常、してはいけない行為。じゃんけんでは負けたものがいくのが筋ではないのですか？

火野 それは……。

充 俺が決めたんです。ほら勝った方が罰ゲームみたいな。男気じゃんけんって知ってます？ そんな感じで。

信彦 もう1つじゃんけんについて。なぜ5対2に分かれたのでしょうか？

7人ならば3、4に分かれるのが普通では？

真紀 何でだっけ？

充 それも、俺が決めました。

信彦 ……ちなみに、このじゃんけん、何回勝負でした？

充 え？

信彦 一発勝負で分かれたのですか？ それともじゃんけんでは負けた回数で決

めたとかではないですか？

火野 負けた回数？

信彦 まあそうでなくても、一発勝負でないならばいいのですが。

真紀 あー。そういうことなら、しようもない話だけどさ、今のは練習！ と

か言って何回かやり直すノリがあったかも。

信彦 なるほど。

俊介 そのじゃんけんの話、何の意味があるんですか？

充 そうですよ！

信彦 まあまあ。話は最後までというやつです。何回かやり直したとのことですが、流れとしてはこんな感じじゃないでしょうか？ まず普通にじゃんけんをした。負けた人が買いに行くというルールで。すると灯さんか青木さんが負けてしまった。だから急遽勇気じゃんけんルールを変更した。そこで1人目の残留者が決まりました。そしてその後も何かと難癖をつけてはじゃんけんをやりなおし、もう1人残留者を決定した。違いますか？

火野 何が言いたいんですか！

信彦 私ももう、今年で40になりますが、男ですからねー。なんとなくわかるんですよ。高校生男子のそういうノリが。

真紀 高校生男子のノリ？

信彦 このじゃんけんは元々、青木さんと灯さんを2人きりにするために仕組みられたものじゃないですか？

間。

一 灯と青木を2人きりに？

信彦 そうです。まあどちらがどちらを好きだったのか、片思いだったのか両思いだったのかは知りませんが、そういうノリでじゃんけんは開始されたというわけです。違いますか？

俊介 ……そうです。

信彦 そうなると。充さんあたりが言い出したんじゃないですか？ 充さんの話はよく聞いてますからね。そういうことをしそうな性格です。

充 なんなんですかあなた！

信彦 真紀の結婚相手で3流オカルト雑誌の記者ですよ。

充 記者っていうのは嫌な人ですね！

信彦 まあまあ、そう怒らずに。で、どうなんですか？

充 そうですよ。俺が言ったんです。あの日、青木と灯を2人きりにしよーぜって。青木はずっと灯のこと好き好き言っていましたからね。面白そうだなーって。単純な興味ですよ。それで俊介と火野にも言ったんです。そしたら協力するって言うから。

信彦 なるほど。青木さんが灯さんのことを好きだったのですか。

灯 気持ち悪い。

火野 え？

灯 私、嫌だったのに。青木に好き好き言われるの。

充 そんなに？

灯 本当に本当に嫌だった。それなのにそんなことされてたんだ。最悪。

充 ごめん。……調子乗ってたんだ。俺。ほら、そういうの面白がる時期ってあるじゃんか？

灯 でもそれが言霊なんだ。

俊介 言霊……。

灯 ずーっと言ってたから。だからあの日青木と私は一緒にここで待つことになった。

一 言葉には力がある……か。お前の口癖だな。

信彦 そして2つ目です。なぜ優希さんはお金を取りに戻ったか。

充 そうだ。あの時1人で行かせなければ。

火野 でも優希はあの時本当に頑なだった。お金なんて後からでもいいって言うってんのね。

信彦 それは、つまり灯さんと青木さんを2人きりにさせるのが嫌だったんじゃないですか？

真紀 そうか。そうかもしれない。

充 俺たちのノリに気づいてたのか。

俊介 そうなのか？ 優希？

優希 ……うん。

優希、ダンボールを叩く。

俊介 そうだったのか。

充 ……じゃあやっぱり俺のせいだな。俺が酒買いに行こうなんて、バカみたいなこと提案したから。それにじゃんけんだって……。

俊介 違う……。俺のせいなんだ。

充 何言ってるんだ。言い出しっぺは俺だろ？

火野 違うってば！俺がノっちゃったから。

俊介・充 お前は絶対に違う！

火野 なんだよそれ！

真紀 だからやめなつて！

信彦 ……3つ目。青木さんは今日来るんですか？

充 来ると思いますけど。

一 確かに。今一番のブラックボックスは青木だ。2人になった青木と灯の間に何があったか。

灯 別に何もなかったよ。

信彦 青木さんしか知らない情報がおそらくあるのでしょう。青木さんが来ないことにはこの先はわからない。

俊介 青木……来るかな？

火野 勘づいて逃げたとかあいつならやりそうだもんね。花火の時だって「夜に集まる必要なくね？ 超怖いんだけど」とか言ってたし、いやいや夜に集まらないと花火できないからっていうね。ゴリゴリの体育会系のくせにビビリなんだよなあ。人間として根本の部分が弱いっていうかさあ。

充 お前、青木のこと嫌いなのかよ。

火野 別に嫌いじゃないよ。中学の時いじめられててそれを根に持ったりなんかしてないんだ俺は。

充 めちゃくちゃ根に持ってんじゃねえか。

真紀 充もう一回電話してみたら？

充 そうだな。

充、青木に電話をかける。

充 あ、もしもし？ 何してんだよお前！ 早く来いよ？ ……え？ もう

着く？ ……わかった。待ってるから。……はい。……はい。（電話を切っ

て）……もうすぐ着くって。

俊介 そうか、来るのか。

真紀 私、迎えに行ってくる。

火野 連絡先わかるの？

真紀 大丈夫。火野以外は知ってるから。

火野 え？ 何？ 俺ってやっぱいじめられてたの？

充 違うって。そういうキャラなだけだ。

真紀 じゃあちよつと行ってくるね。

充 ああ、頼む。

真紀、去る。

信彦 じゃあ待ちますか。青木さんがここに来るのを。
一同 はい。

沈黙が流れる。

優希 ねえ灯。

灯 え？

優希 もう放っておいていいよ。

灯 何言ってるの？

優希 みんなにこんなことしてもらって悪いけど、灯にも本当に悪いと思ってるけど、もうこのままでいいんだ。でもみんなが今日来たのは灯のため。灯がここから出れば全て済むんだよ。

灯 ……できないよ。

優希 なんでよ。【音響Q10：BGM8 動揺 F・I】

灯 私はずっと優希と一緒にいるの。いたい。

俊介 灯！

灯 何？

俊介 優希と話してるの？

灯 ……うん。

俊介 何を？

灯 別に……。

優希、何度も何度もダンボールをドンドン叩く。
皆、動揺する。

優希 帰って！ もうみんな帰ってよ！

充 なんだ？

火野 うわあああ！

灯 優希！ 落ち着いて！
優希 もういいの！ もういいから！
灯 優希が、優希がみんなに帰れって！
一 どうして突然？
優希 帰って！ 帰って！
火野 灯！ なんとかして！
灯 帰ってもらうから！ みんなには。
優希 灯も！ 灯も帰って！
灯 私は帰らない！ 優希が迷惑に思っても！ 私は帰らない！ 優希がこ
こにいる限り、私もここにいる！
優希 なんでわかんないの！ みんなも灯のこと心配してここにいるんだよ！
灯 それでも！ 私は優希といたいもの！
俊介 何が起こって……。
信彦 これは……一体。
優希 帰って！ 帰って！ 帰って！ 帰って！

そこに青木と真紀がやってくる。

青木 ドンドンうるせーな。何やってんだお前ら？

ダンボールの音が止む。【音響Q10…BGM8 動揺 C・O】

優希 勝……。
火野 止まった。
充 あ、青木。
青木 よっ！
俊介 久しぶり。
青木 おお。
充 久しぶり。
真紀 ……青木、今のダンボールの音が。
青木 嘘？ マジで？ 今のが優希の霊なの？
真紀 信じられないかもしれないけど。

青木 いや。うん。信じらんない。あ、灯！生きててマジでよかった。久しぶり。

灯 久しぶり。

青木 だいたいは真紀から聞いたよ。ちょっと信じらんないけどさ。いるんだろ？ 優希？

灯 うん。

優希、ダンボールを叩く。

青木 おお、返事きた！ すごえ！ でも、それだけで優希ってわかるのか？

俊介 いや、まだ確証はないけど、多分。

青木 ふーん。優希ー！

優希、ダンボールを叩く。

青木、何度も優希の名前を呼び、その度に優希はダンボールを叩く。

青木 もうこれ優希だわ！

俊介 さっきまで不機嫌だったんだけどね。

火野 優希めっちゃ上機嫌じゃん！ 優希ー！

無反応。

火野 はいはい！ そう来ると思っていましたよ！

一 ……今日は急に呼び出して申し訳ない。初めまして。俺、灯の兄の一です。

青木 いやいや、全然いいですよ。あ、初めまして。

信彦 私は真紀の結婚相手の春日と言います。

青木 へえ、結構年の差ですね！

火野 誰もそれ言わなかったのに。

信彦 そうなんですよ。お恥ずかしい。

真紀 16歳差だよ。

青木 すげー。そんな離れてるんすね。え？ みんな今何やってるの？

俊介 青木……。

充 もうそういうのはいいんだよ。

青木 え？ 終わっちゃった感じ？ そういうの。

火野 真紀から話聞いているんだろ？ 空気読めよ。

青木 いや、でもさあ、久しぶりなわけだし。

充 お前、火野に空気読めって言われたらおしまいだぞ。

青木 確かに！ 気をつけよ！

火野 どういう意味だよ！

一 ごめんね。いきなりで失礼だけど、このメンバーの中で君が初めて会ったのは、優希だったそうだね。

青木 はい。

一 その時のことを優希に聞いてもいいかい？

青木 ……それがさつき真紀が言ってたやつか。

真紀 うん。

青木 そこにいるのが、優希だったことの証明ってわけね。

真紀 そういうこと。

充 無理にとは言わないけど。もしできるなら。

青木 いいよ。どうせ昔の話だ。

一 灯。優希に聞いてくれないか？

灯 ……わかった。ごめん優希、もう少し私たちに付き合ってね。

優希 わかった。

灯 聞いていい？ 初めて優希が青木にあった日のこと。

優希 うん……。その日、夜の8時頃だったかな。1人でここに来てたんだ。

そしたら勝がここで首吊ろうとしてた。えっ！ って思って走って行って止めたよ。やめなって。勝、野球部だったでしょ？ 最後の大会、勝のせいで負けたんだって。だから、そんなことで死ぬなんて馬鹿じゃないかってビントして。それでなんかいろいろ話して、仲良くなった。そんな感じ。

灯 ありがとう。

充 なんて？

灯 自分のせいで野球部最後の大会負けて自殺しようとしてたんだって。合ってる？

火野 嘘だろ？ そんなことで？ 心よっわ！

充 馬鹿！ 空気読め！

青木 ……合ってるよ。お前ら馬鹿にするけどな。俺はそれだけ本気で野球をやってたんだよ！ それこそ命がけだよ。それが自分のせいで終わったんだ。自殺くらい考えるだろ？

火野 考えないよ。

青木 てめえなあ！

火野 なんだよー。中学時代は偉そうにしてたくせにさあ？

充 やっぱ引きずってんじゃん。

火野 引きずってないってば！

青木 ……もういいいよ。終わったことだ。今は若かったなと思うよ。優希には感謝してる。

火野 なに大人になっちゃってんだよ！

青木 いやなるだろ。俺たちもう24だぜ？ 今日だって仕事帰りだし。

俊介 なんの仕事？

青木 土木系の現場監督みたいな？

充 似合ってるよ。

青木 もう死ぬ暇なんてないない。

俊介 そりゃよかった。

青木 でもさ、マジでここで自殺しようとしたことは真紀と優希しか知らないはずなんだ。……真紀お前？

真紀 話してないよ。私を疑うの？

青木 いや……。

真紀 いるんだって。優希が。

青木 ……。

充 今ので、そこにいるのが優希だっていうのは、証明されたよな！

青木 あ、ああ。

一 だから話してくれないか？ 優希が死んだ時のことを詳しく。何か知ってるんだろ？

青木 ……俊介、お前話してないのか？

俊介 え？

青木 まあいいや。……俺はただ逃げただけです。本当に自分でも情けないけど、逃げただけなんです。あの日、俺は灯に告白しようとしてた。そしたら

まず、優希が来たんです。正直、邪魔だなあと思いつながら3人で少し他愛もない話をしてました。……そしたら。

一 そしたら？

青木 ……そこに……暴走族みたいな連中がやってきたんです。

充 暴走族？

一 そんな話警察からも聞いたことないぞ。

俊介 おいっ！

青木 なんだよ。

俊介 ……話すのか？

青木 もういいだろ？ 俺たちは臆病者だ。6年間隠してきた。でも灯がここ

にいるんだ。言っても言わなくても同じだろ？ 灯！ 話していいだろ？

灯 ……うん。

俊介 でも！

充 なんだよ！ 何があつたっていうんだよ！

火野 お前らなんか隠してたのか？

真紀 青木？

青木 ああ、俺はそれを言うためにここに来たんだ。

一 詳しく聞かせてもらっていいかな。

青木 俺よりお前の方が見たもんな。お前から話すか？

俊介 俺は……。灯。

灯 ……俊介から、話しなよ。

俊介 いいのか？

灯 ……うん。お願い。

俊介 わかった。……俺と青木は警察に嘘をついたんだ。あの日、俺がここに戻ってきた時、3人は暴走族みたいなやつらに襲われてた。

【照明 Q 4 …暗転】

役者ストップポジション。

【音響 Q 1 1 …BGM 9 蛍の光 F・I】

舞台中央に灯のスマホのライトが舞う。

【音響 Q 1 2 …BGS 3 録音された音声が流れる。 C・I】

以下スマホに録音されたざらざらした音声。

灯 いや！ やだ！ やめて！

男1 おい口塞げ黙らせろ！

灯 いやあ！

男2 しつかり撮っとけよ！

灯のうめき声が常に響く。

青木にスマホのライトがあたる。

逃げ出す青木。

青木 わああ！ 【音響Q13・BGS4 録音された音声が流れる。 C・I】

男3 おいつ！ 男が逃げたぞ！

男1 ほっとけ！ そっちのやつは？

優希にスマホのライトがあたる。

男2 (笑って) こいつ腰抜かしてるよ！

男3 待ってるよ！ お前も後で相手してやるから！

男1 てめえ抵抗したら殺すぞ！

灯 やだ！ 撮らないで！

その場に寝転ぶ灯。ケータイのライトは真上を照らす。

灯の鳴き声ともうめき声ともつかない声が響き渡る。

その声がしばらく続いた後、灯はケータイのライトを消す。

【照明Q5・オレンジの光が舞台を照らす】

灯、ゆっくりと立ち上がる。

俊介 灯……。

灯 いたんだ……。

俊介 あの。

灯 言わないで。

俊介 え？

灯 言霊って知ってる？ 言葉には力があるの。

俊介 どういう。

灯 「お父さんなんか消えちゃえ！」ってずーっと言ってた。ずーっと言ってたたら本当に消えちゃったから。言霊はあるんだよ。

俊介 何言ってるの？

灯 言わなければなかったことになるよ。

俊介 ……。

灯 ねえ優希。

優希、ビクッと反応する。

灯 なんで優希は無事なの？

優希 ……男たちが、俊介の気配に気づいて、それで……。

灯 ふーん。

ゆっくり、優希の方へ向かう灯。

それを見て逃げ出す優希。

灯 待ちなよ！

灯、優希を追いかける。

立ちすくむ俊介。

そこに青木が戻ってくる。

俊介 あ、青木。

青木 俺……俺……。

俊介 黙ってよう。

青木 え？

俊介 黙ってよう！

青木 う……うん。

【照明 Q 6 ……暗転】 【音響 Q 11 ……BGM 9 蛍の光 F・O】

灯と優希も戻ってくる。

【照明Q7…地明かり】

俊介 そのあと2人のことを探したんだけど、いくら探しても見つからなくて。
青木 だから、そのことはなかったことにしたんだ。

間。

一 ……今の話は本当なのか？

青木 ……はい。

充 お前ら、なんで黙ってた。

俊介 だって……。

一、俊介を殴る。

俊介、力なく倒れる。

一 お前らのせいだ！

俊介 ……。

灯 やめてお兄ちゃん！ 私が悪いの！

一 止めるな！ 何言ってるんだ！ お前は何も悪くない！ 悪いのはこいつらじゃないか！ こいつらさえ！ こいつらさえ！

俊介 ……。

灯 やめて！

信彦 やめましょう。お兄さん。悪いのは俊介さんでも青木さんでもありません。その灯さんを襲った奴等です。わかっているでしょう？

一 それは、そうですね！ でも！
信彦 そしてそいつらを捕まえることもほとんど不可能ということもわかっているのでしょうか？ お気持ちはわかりますが、だからと言って他の人にあたってはいけません。

一 でも！

灯 お兄ちゃん！

一 灯……。くそ……。

一、うつむく。

真紀 灯……。【音響Q14…BGM10 カノン F・I】

灯 ……言葉にするのって、すごく痛いの。だから、私あの日、俊介に言わないでって言った。言わなきゃ大丈夫って思ってた。言葉にしなきゃなかったことにできる。そう思ってたはずと溜め込んだ。でもダメだった。ずっと苦しかった。きっと俊介も青木もそうだったと思う！ でも今日、2人は話してくれた。優希もそうでしょ？ ずっと溜め込んでたんでしょ？
ねえ優希！ 思い出せない？

ダンボールのかすれたような音。

【照明Q8…オレンジに切り替わる】

灯、優希以外の役者静止。

舞台上を回る2人。

灯は優希を追う。

灯 優希、ごめん。

優希 灯、ごめん。

灯 本当にごめん。

優希 本当にごめん。

灯 謝っても謝りきれない。

優希 謝っても謝りきれない。

灯 優希を、ただ、追いかけてった。

優希 灯から、ただ、逃げていった。

灯 いくら手を伸ばしても私の手は届かなくて。

優希 いくら足を動かそうとしても動かなくて。

灯 いくら声をあげても私の声は届かなくて。

優希 いくら耳を潜めても灯の声は聞こえなくて。

灯 だから追いかけてった。

優希 だから逃げていった。

灯 追いかけて追いかけて追いかけて。

優希 逃げて行って逃げて行って逃げて行って。

灯 追いかけて追いかけて追いかけて。
優希 逃げて行って逃げて行って逃げて行って。
灯 追いかけて追いかけて追いかけて。
優希 逃げて行って逃げて行って逃げて行って。
灯 私は優希を崖から突き落とすとした！
優希 突き落とされた！

間。

灯 ずっと言えなかった。優希が思い出すのが怖かった。優希を殺したのは私なんだ！

ダンボールを叩く音。【音響Q14・BGM10 カノン C・O】

【照明Q9・目潰しからの一瞬の暗転】優希が消える。

【照明Q10・地明かり】

灯 え？
一 灯？
灯 嘘。

灯、ダンボールを押しの手下手へ向かい、戻ってくる。

灯 優希が、優希が消えた。

間。

一 ……消えたのか。
灯 いきなり……見えなくなって、それで。
充 優希ー！
火野 優希ー！

しばらく優希を呼ぶ充と火野。

真紀 ……返事が返ってこない。
青木 じゃあやっぱり。

灯、その場に座り込む。

灯 優希が……優希が消えちゃった。

真紀 灯……。

充 今の一瞬で、優希が消えた？

火野 ……なんで？

間。

充 認めたからじゃないか？

火野 え？

充 灯が、優希の、本当の死を認めたから。だから消えたんじゃないか。

火野 それって、灯が優希を……。

一 よかった！ これで、よかったんだ！

灯 優希……優希！ なんでよ！ 私まだ……。

間。

信彦 (ブツブツと) 途中で引き返した優希さん、灯さんと青木さんが2人になるのが嫌だった。青木さんが来る直前に起こった激しいポルターガイスト

現象……。

真紀 信ちゃん？

一 どうか、されましたか？

信彦 もしかして私は、とんでもない勘違いをしたのかもしれない。

一 勘違い？

信彦 あの……皆さんにお伺いしたいのですが、いや、今聞くことではないのかもしれないが、優希さんって青木さんのことが好きだったんじゃない……。

間。

信彦 そうなんですね。

充 みんな、なんとなくは知ってました。でも青木が灯のこと好き好き言ってるの知ってたから。

火野 え？ そうなの？ 俺知らなかった。

真紀 みんな気づいてたよ。

信彦 だから、青木さんが来たらポルターガイスト現象がおさまったんですね。

充 あ、さっきの。

信彦 あの日、灯さんと青木さんが2人きりになるのを嫌がったのも、青木さんが好きだったから。

青木 優希が俺を？

真紀 本人、気付いてなかったか。

青木 マジかよ。俺、普通に優希の前で灯を好きだと言ってた。

充 まあ、なあ。

火野 ……でも、その何が勘違いなんですか？

信彦 ずっと、私は優希さんは灯さんのことが好きなのかと思ってました。俊介さんから昨日の話を聞いた時も、勝手にそういう風にイメージしてしまっていたんです。

真紀 イメージ？

信彦 優希さんは、女性なんですね。【音響Q15…BGM11 女同士の友情 F・I】

充 ……そうですね。それが何か？

信彦 私、この件はずっと七夕の、男女のお話だと思っていました。そう、おそらくこの中で私だけ。

真紀 どういうこと？

信彦 いや、私はずっと優希さんは男性だと思って話を聞いていたんだよ。

充 あ。

火野 あー確かに、優希って名前は紛らわしいですね。

信彦 そう、それにさっきまでここにいたと言われても私にはその姿を見ることはできないですから。ずっと男性の姿でイメージしていました。ですが、皆さんの話を聞いていると少し違和感がありました。例えば、お金を忘れたと言って優希さんがここに戻ろうとした時、1人で夜道を行かせるのをそんなに心配するでしょうか。一さんは先ほど優希さん、真紀は何度かうちに遊

びに来たことがあるとおっしゃっていました。皆さん均等くらいに仲が良いはずなのに、家に呼ばれたのがその2人だけなのは不自然かと思っていたのですが、女の子同士なら別に何も問題は無い。普通のことです。この件は女同士の「ずっと一緒にいよう」「そばにいるよ」という、友情の話だったんですね。この5年間、その言葉を胸に彼女たち2人はここで逢瀬を重ねたわけだったんです。

真紀 あの2人はまさに親友っていう関係だったよ。ちよつと羨ましかったもん。

一 ……みなさん、ありがとう。形はどうあれ優希はいなくなった。灯がここに縛られる必要もなくなつたんだ。

俊介 ……これで、良かったんですかね？

真紀 良かったよ。だって、ずっとここに縛られているわけにはいかないじゃない？ 魚だって、廃館した水族館じゃ生きていけないのと一緒でさ、大人になつた私たちはもうここにはいられないんだよ。

充 大人に……か。

青木 俺も、これで良かったと思う。

灯 ……みんな、ごめんね。私……。【音響Q15…BGM11 女同士の友情 F・O】

間。

俊介 でも。

火野 なんだよ！

俊介 だって灯は、優希を……。

充 黙つてよう！

俊介 え？

充 それこそ黙つてよう！ もう事件は事故で処理されてるんだ。今更真実を言う必要はない。優希だってそう思つてるはずだ！

真紀 充……。

一 俺も充に賛成だ。灯は優希が消えたと言ってる。ようやく一歩踏み出せたんだ。この5年間灯は十分罪を償つただろう？ だからこれからは灯の、灯だけの人生を歩むんだ。

青木 いや、でもそれは。

火野 どんな事情があるにしろ罪は罪だ。しっかり償わないと……。

充 それで優希が喜ぶか？

火野 そういう問題じゃないだろ！

充 俺たち以外知らない事実だ！

火野 だからって、していいことと悪いことがあるだろう！

充 悪いことだっていいさ、それで優希と灯が救われるなら！

火野 そんなことで救われるはずないだろ！

真紀 待って！ やめて2人とも。灯に……灯に聞こうよ。ね。

充 あ、ああ。

火野 うん。

俊介 俺は、灯のしたいようにすればいいと思う。

一 灯！ 灯はどうしたい？

灯 私は……私はちゃんと罪を償いたい。

間。

一 そうか。灯がそう言うなら。明日にでも警察に……。

信彦 待ってください！ 【音響Q16・BGM12 最後の真実 F・I】

真紀 信ちゃん？

信彦 先ほどから横槍ばかりですいません。

一 いえ。

信彦 ですが、灯さんは自首することはできません。

火野 証拠不十分とかですか？ でも自首だったら。

信彦 そうではありません。

充 じゃあなんだって言うんですか？

信彦 少し、皆さんに見ていただきたいものがあります。

信彦、舞台上手裾からビデオカメラを取り出す。

信彦 今日、私がここに来てから、今まで、ずっとこのビデオカメラを回して
いました。

充 いつの間に。

信彦 記者の悪い癖で。すいません。ちょっと皆さんでこれを確認してもらえませんか？

優希以外、全員ビデオカメラを覗き込む。

信彦 再生しますね。…今、私が来たところですね。少し飛ばします。ここで一さんがいらつしやいました。

一 はい……え？

一同沈黙。

信彦 少し、飛ばしながらいくつか見ていきましょう。

信彦、ビデオカメラを操作する。

信彦 これで、後から青木さんがいらつしやったところです。

俊介 灯が……灯が映ってない！

青木 なんだこれ。

真紀 私たち何と話してるの？

充 どういう……。

信彦 私も最初は目を疑いました。私がおかしいのかと思いました。しかし私以外の人は普通に灯さんの姿が見えているようだったのでしばらく合わせてみることにしたんです。急に言い出しても信じていただけなれないと思い、また記者としての興味本位からしばらく黙っていました。そして皆さんのお話を聞いているうちに1つの結論に辿り着きました。この件は、ファントムペインでも地縛霊でもない、言霊が起こしたことなのではないかという結論に。

灯 言霊……。

真紀 言霊がなんだっていうの？

信彦 皆さん行方不明の灯さんに対してずっと言っていたのではないですか？私自身何度も真紀から聞いたことがあります。「灯はきつと生きている」そう、「生きているはずだ」と。言い続けたのではないですか？ その言葉が力に

なつて具現化した。

火野 そんな……ありえない。

信彦 優希さんの存在を認めたあなた方です。今更ありえない事象なんてこの世に存在しないと思いませんか？

一 俺は、俺は5年間、灯と生活してたんだぞ！

信彦 それを証明できる人はいますか？ 見つかった時に警察に届け出ましたか？ 病院に連れて行けましたか？ 灯さんはここに来る以外ずっと閉じこもっていたのでしょうか？ 何より灯さんは今ビデオカメラにも私の目にも写ってはいませんか！

一 そんな……。【音響Q16..BGM12 最後の真実 F・O】

一同再び沈黙。

俊介 灯！ お前、そこにいるよな。

灯 いるよ。

俊介 幻じゃないよな？

灯 それはわからない。

俊介 そんなこと言うなよ。

灯 だって、言霊を一番信じてたのは私だもん。

俊介 だけど！

信彦 先ほど、優希さんは消えました。優希さんは灯さんにしか見えていなかった。それは優希さんの死を他の皆が認めていたからです。それが、消えた。そのことが何を意味するか。

充 え？

信彦 今度は皆さんが、灯さんの死を受け入れれば、灯さんは消えるのです。次は皆さんの番です。

俊介 そんな、いきなりそんなこと言われたって。

充 そうですよ！ さっきまでずっと一緒に話してたんですよ！

火野 それをいきなり。

信彦 ビデオカメラを見たでしょう？ あれが全てです。

青木 そんな……何かのバグかも。

信彦 そう、思いますか？

間。

真紀 (目をこすって) あれ? え? 【音響Q 17 .. BGM 13 ホタルは消えた F・I】

充 ……真紀、もしかして。

真紀 ……嘘でしょ? 消えた……。灯が、消えた。

信彦 真紀は私のことを一番信じている。だから私の言葉を一番早く受け入れたのでしよう。

充 そうか……。

火野 灯は、いませんですね。

灯 そっか。私、いませんだね。

間。

青木 俺は結局……、今日もただ逃げただけだったってわけか。

真紀 違うよ。

青木 え?

真紀 誰だってそんな状況になれば怖くて冷静に動けない。青木は自分を責める必要なんてないと思う。よく、今日ここに来てくれた。話してくれた。ありがとう。

青木 真紀……。

充、火野、青木が目をこすり出す。

充 なんか、視界がぼやけて……。

真紀 じゃあ。

一 嫌だ! 俺は認めない! 灯は、灯はここにいるんだ! 灯を普通の生活に戻してやるために俺は……。俺は……!

灯 お兄ちゃん。

一 灯! お前はここにいる! ずっと一緒にいた! これからも、ずっと一緒にいるんだ!

灯 ごめんね。

一 謝るな！ お前は何も悪くない。

灯 お兄ちゃんのおかげでとつても長い間、優希と一緒に入られた。本当に感謝してる。

一 違う！ これからじゃないか。これからお前の人生が……。

灯 ごめんお兄ちゃん。今までありがとう。

一 灯ー！ 【音響Q17…BGM13ホタルは消えた F・I】

一、その場に跪く。【照明Q11…暗転】

【音響Q18…BGM14 カノン F・I】

周りのケータイのライトが舞う。

俊介 灯。

灯 なーに？

俊介 俺はお前を消さない。

灯 ありがとう。でも。

俊介 今度は俺がここに来る。毎日！ 毎日来るから！

青木 それは無理だよ。

俊介 なんてだよ！

青木 ここ、来週、取り壊されるんだ。

俊介 え？

青木 うちの会社が解体作業請け負っててさ。

俊介 嘘だろ？

青木 嘘ついて何にもならないだろ？ 7年目の夏は来ないんだ。

俊介 ……でも！ 俺が信じれば、お兄さんみたいにここ以外の場所だって。

真紀 昨日までなら、それもできたかもね。でも私たちは事実を知ってしまっ

た。もうそこまで強く思うことはできないよ。

俊介 できる！

火野 お兄さんにできなかったんだぞ。お前にできるわけない。

充 それに、もしできたとしてもそれは灯であって灯じゃないんだぞ！

俊介 そんなのわかってる！ それでも俺はやる！ だって、俺は、俺は、ず

っと！ ずっと！

灯 言わないで。

俊介 え？

灯 言霊って知ってるでしょ？

俊介 俺は……。ずっと、ずっと言えなかったんだ。

灯 だからもういいの。

俊介 だって、お前はここにいるのに！

灯 もう届かないよ。

俊介 嘘つくなよ！ まだ届くだろ？ まだ聞こえるよな？ 俺はお前にいつ

ぱいっばい言いたいことがあったんだ！ 話したいことがあったんだ！

せめて、せめてそれを聞いていけよ！

灯 本当は、ずっと、ずっと待ってたよ。

俊介 灯。だったら！

灯 でも、もう遅いの！

俊介 そんなこと言うなよ。

灯 言ってしまったえば俊介は私に縛られることになる。それは嫌。

俊介 そんなの気にする必要ない！

灯 もう無理だよ。

俊介 せっかく！ せっかく会えたのに！

灯 バイバイ。

俊介 やめろよ。

灯 ごめんね。

俊介 灯！ 待って！ 行かないで！

灯 ありがとう。

俊介 あ、あ、ああああああああああああああああああああああああああああ。

周りのケータイのライトが消える。【照明Q12…目潰し】

俊介の泣き声がむなしく響く。

【音響Q18…BGM14 カノン F・O】

○第3幕

【照明Q13…地明かり】 【音響Q19…BGS5 海の音 F・I

↓20秒程でF・O】

花を持って佇む一、俊介、充、青木、真紀、火野。
花を置く一。

全員で手を合わせる。

- 一 君たちには本当に世話になった。改めてお礼を言うよ。
- 俊介 いえ、僕たちこそ、本当に何もできずに……。
- 一 無駄かもしれないが、俺は事件の犯人を探そうと思う。
- 俊介 え？
- 一 犯人たちは動画を撮影していたらしいじゃないか。もしかしたらまだ証拠を持ってる可能性もある。
- 充 見つけて、どうするんですか？
- 一 それは、決めてない。
- 真紀 無茶、しないでくださいね。
- 一 どうかな。……あと、あいつの身体も見つけてやりたい。
- 充 そうですよね。
- 一 まあこれも見つかるかはわかんないけどな。いや、多分見つからないんだろう。
- 真紀 どうして、そう思うんですか？
- 一 あいつはあの日、消えたんだよ。
- 火野 ……でもあれですね。ここに花を置けるのもほんの少しだけなんですわ。
- 一 ああ。
- 青木 ここ、ペンションが立つんだってな。
- 充 ペンションね。
- 火野 俺たち、ここを追い出されるんだな。
- 真紀 追い出されるんじゃないよ。出て行くの。一種の卒業みたいなもんさ。
- 青木 卒業かー。
- 一 そういえば、あの2人は卒業できなかったんだもんない。
- 火野 大人に……なれなかった。
- 青木 でも昨日の灯は、成長してたよな？
- 充 それは、俺たちがそう思い込んでたからそう見えたんじゃないか？
- 真紀 いいじゃん。灯も優希も私たちと一緒に成長してるんだよきつと。一緒におばあちゃんになるんだよ。天国で会ってもきつとおばあちゃんだよ。

火野 それって天国じじばばだらけじゃん！

真紀 細かいことはいいの！ だから2人も卒業おめでとうって言うてあげようって話。

火野 そうだね。卒業おめでとう。

一 おめでとう。

充 おめでとう。

青木 おめでとう。

真紀 おめでとう。

俊介 灯、優希、卒業おめでとう。……なあ灯。やっぱり、俺、お前のことずっと……。

【音響Q20…BGM15 オールド・ラング・サイン F・I】

【照明Q14…溶暗】

幕。